

なぴあ



公益財団法人長崎県国際交流協会 広報誌
2025年9月発行 VOL.128

事業報告



令和7年度青少年国際理解講座「学ぼう！遊ぼう！世界体験旅行！」
2025年8月8日 不動技研ながさき市立図書館

カザフスタンの面積は
日本の約7倍。
人口は6分の1。



カザフスタン

名前をハングルで
書いてみよう！



韓国

インドの言葉で
挨拶しよう
「ナマステ」



インド

去年の最高気温は、
なんと48.2℃！



ミャンマー

コアラの睡眠時間は、
1日20時間くらい。



オーストラリア

今年も、小学生向けの人気講座「学ぼう！遊ぼう！世界体験旅行！」を開催しました。この講座は、子どもたちがいろいろな国の文化にふれ、楽しみながら国際理解を深められるようにと企画されているものです。

今回は、カザフスタン、ミャンマー、インド、オーストラリア、韓国の5か国から来た講師の方々が、それぞ

れの国の文化や生活、言葉などを紹介してくれました。

子どもたちは「特製のパスポート」を持って、各国のブースを巡り、外国の先生たちとふれあいながら学びました。普段はなかなかできない貴重な体験に、子どもたちは興味津々！ 楽しく世界を旅するような一日になりました。

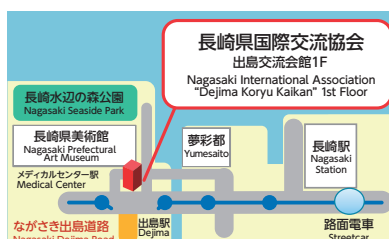


公益財団法人

長崎県国際交流協会

Nagasaki International Association

〒850-8062 長崎市出島町2番11号
TEL 095-823-3931/E-mail nia@nia.or.jp
[開館時間] 月～金曜日 9:00～17:30 ※祝日休館



公式 HP



Facebook



7月2日（水）、長崎県市町村会館にて、今年度最初の多文化共生講座を開催しました。

今回は、一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR）の地域国際化推進アドバイザー・矢野花織さんを講師にお迎えし、外国人住民と関わる業務に就いたばかりの市町職員や、日ごろ外国人住民とのコミュニケーションに課題を感じている職員の方々を対象に実施しました。

講座は、座学に加え、体験型のゲームや外国人住民との日本語による交流を通して、実践的な学びを深める内容となりました。

矢野さんは、これからの地域共生社会のあり方について、「日本人も外国人も、それぞれが『支える側』にも『支えられる側』にもなれる存在。お互いの力を活かしながら協力し合うことが、誰もが安心して暮らせる社会をつくるうえで大切。」と話しました。

また、外国人住民とのコミュニケーションに悩む職員に向けては、「大切なのは、『あなたのことを分きたい』という気持ちが相手に伝わること。」とアドバイス。その思いが届けば、「外国人の方も『自分の思いを伝えたい』という気持ちになってくれる」と続けました。

さらに、外国人住民への対応については、「これをすれば必ずうまくいくという“正解”はない」としたうえで、「だからこそ、どうすれば伝わるのかを常に工夫し続ける姿勢が大切です」と語りました。

座学のあとは、外国人住民の方々も交えてゲームを実施。このゲームを通して、市町職員の皆さんは自分の常識やルールが通じない場面に出会ったとき、「どのような気持ちになるのか」「どんな混乱が起きるのか」「どのように対応し、適応していくのか」といった外国人住民の多くが経験する戸惑いを、実際に体感しました。

ある参加者からは、「トランプゲームでの違和感がとても印象に残っている」といった感想もあり、外国人住民が経験する異文化との出会いを肌で感じる貴重な機会となりました。

続いて行われた交流の時間では、外国人住民と市町職員が直接対話する場が設けられました。職員からは、文化や習慣の違い、業務上の対応方法など、さまざまな疑問や意見が活発に投げかけられていました。

たとえば、日本語の敬語について悩む職員に対して、外国人住民の方からは、「日本語が上手な人にとっては、日本人と同じように敬語で話してもらえると嬉しいです。ただ、日本語があまり得意でない人にとっては、敬語は難しいので、できるだけわかりやすい言葉で話してもらえると助かります」との声がありました。

このやりとりを受けて、矢野さんは、「まずは普通に話してみて、伝わらなければ簡単な言葉に言い換えれば大丈夫。もし伝わったなら、そのまま話を続けてかまいません」と助言しました。

アンケートには、「お互いを理解しようとする気持ちや、違いを受け入れながら共に暮らす姿勢の大切さを改めて感じる事ができた」「外国の方と交流し、さまざまな意見を聞いたので、今後の業務に活かしていきたい」など、多くの前向きな声がありました。



地域国際化推進アドバイザー
矢野 花織 さん

文化の違いを肌で感じるトランプゲーム。
終わるまで、声を出してはいけません!!



紙を見てルールを確認。
声を出してはいけません。



トランプゲーム1回戦。
ルールは合っているのかな??



3回戦は、メンバーをシャッフル!
あれ?? 微妙にルールが違う気がする……

ルールが違うと感じた人がとった行動

- ・新しいメンバーに自分のグループのルールを伝える
- ・新しいメンバーと改めてルールの確認を行う
- ・相手のルールを受け入れる

どれも
正解!

令和7年度国際理解講座【派遣型】

長崎県市町職員研修センターが実施している「地域づくりコーディネーター養成研修（全8回）」の第4回講座に、県内在住の外国人住民4名を派遣しました。この講座は自治体職員の語学力向上と異文化理解を深めることを目的に開催されているもので、地域で暮らす外国人が感じる長崎の魅力や、外国人観光客に選ばれる観光地としての在り方などについて、英語を使って意見交換をしました。

エジプト出身のモハメド・タルアト・ヘルミー・モハメドさんは「アメリカと比べて、物価が安く治安が良い」と長崎の暮らしやすさや島原半島をはじめとした豊かな自然の魅力について話していました。また、ウガンダ出身のパメラ・シャーロット・アチョームさんは、バスの

乗り方に戸惑った際、長崎の人が親切に助けてくれた経験を紹介し、「東京の人は素通りするけど、長崎の人は本当に優しい」と話し、地域の人のぬくもりを職員も再認識する場になりました。さらに、休憩時間には、おやつの原材料を確認する外国人の姿も見られ、宗教や文化によって食べられるものが異なることや、食品表示の重要性、異文化に配慮する意識の必要性を改めて感じるひとときとなりました。

このように、第4回講座は、外国人住民の視点から「暮らしやすさ」「優しさ」「自然」といった長崎ならではの魅力を改めて見つめ直すきっかけとなり、今回の経験が地域づくりや観光施策に活かされることが期待されます。

令和7年度
第1回コミュニティ交流会

4月21日（月）、スリランカ出身のシラーニ・ヘーラットさんをお迎えし、「教育」をテーマに意見交換を行いました。

シラーニさんは、長崎大学に留学していたご主人との結婚を機に来日し、長崎での暮らしを始めてから30年になります。その間、2人のお子さんを出産・子育てしながら、英語講師としても長年ご活躍されています。

来日当時は、今ほど外国人も多くなく、言葉や生活習慣の違いに戸惑うことも多かったそうです。だからこそ現在は、長崎で暮らすスリランカ人の方々をいつも温かく支えています。最近では、ホームシックになった日本語学校の生徒を自宅に招き、スリランカ料理でもてなしたという心温まるエピソードの紹介もありました。

そんなシラーニさんに、スリランカと日本の教育の違いについてお話をいただきました。

「スリランカでは、子どもの教育は主に母親の役割です。でも私は日本語があまり話せなかったのが、子どもの教育のほとんどのことを夫が引き受けてくれました。幼稚園や学校との連絡や配付物の確認、子どもの宿題など、すべて夫が対応してくれたんです」と振り返ります。

一方、シラーニさん自身は、ボランティアで英語教室を始め、そこで日本人の友人が増えていきました。友人たちからは、日本の小学校や子育てに関する情報をいろいろ教えてもらえ、大きな支えになったそうです。

「日本での暮らしに慣れる中で、学校にかかる費用のことも少しずつ分かるようになりました。ただ、知っていればよかったと思うのは“学資保険”のことです。スリランカには貯金の文化があるので費用の準備には困りませんでしたが、学資保険はとてもよい仕組みだと後から知り、驚きました」と話してくださいました。

また、スリランカの教育制度については、「1年生から13年生まであり、最終学年で国家試験を受けて、その成績によって進学できる大学が決まります。学校教育はとても厳しく、勉強中心の生活です」とのこと。

そのうえで、「それに比べると、日本の学校は自由だけど、宿題もあり、バランスのとれたとても良い教育制度だと感じています」と、日本の教育についてあたたかい視点で話されていました。



ドゥメラ!

Dumela!

(こんにちは)

世界でキラリ★ JICA 海外協力隊

江口 太陽(えぐち たいよう)さん

隊 次：2023年（令和5年）1次隊
派遣国：ボツワナ共和国
職 種：小学校教育

ボツワナの一般情報(外務省のHPより引用)

面 積：56.7万平方キロメートル
人 口：252万人（2024年：世銀）
首 都：ハボローネ
民 族：ツワナ族（79%）、
 カラंगा族（11%）、
 バサルワ族（3%）等
言 語：英語、ツワナ語



ボツワナ共和国はアフリカ南部に位置し、面積は日本の約1.5倍、人口は日本の約50分の1（約250万人）、野生動物や自然が溢れる内陸国です。私は首都ハボローネのベンテマ（Ben Thema）小学校で2年間活動しました。児童生徒911名、教職員数50名以上、全34クラス（0～7年生）の学校です。

ボツワナの小学校では体育実技の授業がほとんど行われず、放課後も運動に積極的に関わる子どもが少なくという実態があったため『運動機会の増加』『体力向上』を目標に、体育の授業を始めました。体育以外の時間には算数やICTの補助なども行いました。

はじめに、『体育ができる環境（グラウンドやボールなどの体育用具）が整備されていない』という問題に直面しました。そこで、校内に廃棄されていた椅子や机、クッションや板などを利用し、ボールや平均台、ハードルなどを作りました。授業のときにボールの作り方を紹介したあとは、子どもたち自身でボールを作ってサッカーをして遊ぶ姿が見られました。グラウンドも無事に

整備され、以前よりも休み時間に外で遊ぶ子どもが増えました。

私は「最終的には現地教員自身で体育を教えてほしい」と思い、彼らに授業観察に来るよう伝えていました。しかし、1年目は継続的に授業観察に来る教員は少なかったです。そのため、新たな体育用具やレポートの作成も並行して行い、私の帰国後でも彼らが体育指導をできるような環境づくりに注力しました。最終的には、帰国の半年前ころから、授業観察に来る教員が増え、「あなたが帰国したら私が体育を教える」と言った教員もいて頼もしく感じました。

また、子どもたちには① Safety First ② Follow the Rules ③ Respect Each Other という3つの約束を常に伝えていました。これらは人生においても大切なことだと考えていたからです。子どもたちが徐々にこれらを覚え、互いに注意し合ったり、お別れ会のときに「これからも大切に守っていく」と言ってくれたりしたのは、とても嬉しいことでした。



就学前クラス（0年生）の体育の授業



教育省を訪問。活動報告とボツワナ教育課題（算数教科書の改善の必要性）についてプレゼンテーション



廃材を用いた的当て（ボール投げ）の体育用具を作成

台風のと看、外国人住民とも声をかけ合ひましよう

県内には、15,000人を超える外国人が暮らしています。その中には、台風などの災害に慣れていない人もおり、言葉の壁により、気象情報や避難の方法など、正しい情報が届かず、避難が遅れてしまうケースもあります。

言葉や文化の違いがあっても、同じ地域の仲間として、お互いに助け合える関係作りが大切です。また、外国人住民の中には、日本語や他の言語を使って情報を伝えたり、高齢者などを支援したりできる方もいます。

外国人も支える側として活躍できることを知り、地域みんなで協力できる環境を整えていきましょう。

台風などの災害時は、身近なところから声をかけ合ひましよう

- ・やさしい日本語での声かけが安心につながります。
例：「今日は、台風が来ます。一緒に公民館に、逃げましよう。」
- ・日本語が分かる外国人住民が、母国語で防災情報を周囲に伝えてくれることもあります。
- ・多言語で対応できる人(日本人・外国人問わず)は、通訳や翻訳を通して、言葉が分からない方の助けになります。

外国人住民も、地域を支える大切な力です

外国人住民の中には、医療や介護の分野で働いている方や、地域の活動に積極的にかかわっている方もいます。災害時にも、地域の一員として頼れる存在です。

日本人住民も、外国人住民も「支える人・支えられる人」になり得ます。普段から、あいさつや会話、地域のイベントなどを通して、顔の見える関係を築くことが、「もしも」の時の助けになります。

長崎ネパール協会のご紹介

現在、長崎県内には15,692人の在留外国人が暮らしています。そのうち1,674人がネパール国籍の方で、全体の約1割を占めています。現在、学校(留学)や、技術・介護などの職場で、広く活躍しています。(出入国在留管理庁 2024年12月調査・2025年7月公表)。

ネパール国籍の方々は、これまでも、ネパール人同士がつながり、また助けあうなどして、県内でコミュニティを築いてきました。近年、ネパール人が県内に多く住むようになり、一層つながりを深めるとともに、地域の日本人との交流を目的として、2023年4月14日に「長崎ネパール協会」が設立されました。この日は、ネパールの暦「ヴィクラム暦」では2080年1月1日にあたり、新たな年の始まりを祝う特別な日でもあります。

今年4月、長崎ネパール協会は設立2周年を迎え、先般、記念の総会が開催されました。当日は、県内在住のネパール人に加え、これまでネパールの支援などに関わってきた方々や JICA 関係者など、約60人が参加して開催されました。

駐日ネパール大使のビデオメッセージの披露や昨年度の活動内容の報告などとともに、ダンスの披露があるなど、大変盛会に行われました。

本県では、在長崎ベトナム人協会が1月に旧正月フェスティバルを開催しており、今後ネパール協会がそのようなイベントを企画・開催される折には、国際交流協会としてもしっかりと支援を行ってまいります。



新役員のみなさん

会 長	サコタ ビド
副 会 長	ガレ バルクリスナ
幹 事	ウサ バウテル セトリ バンダリ
副 幹 事	バッタ ブラカス
会 計	グルン ジョソ
名誉相談役	バンディ バスデバ
名誉相談役	バウテル セトリ タクル バハドゥール
名誉相談役	チャバイ バスデバ



「長崎県外国人相談窓口」の営業日時のお知らせ

営業時間：月曜日～金曜日、午前9時～午後4時
 休 み：土曜日、日曜日、祝日、12/29～1/3
 T E L：095-820-3377
 Eメール：soudan@nia.or.jp
 場 所：長崎県国際交流協会内（長崎市出島町2-11）

外国人の在留資格、出産、福祉などの生活相談などについて、長崎に住む外国人や日本人の外国人関係者が相談することが出来ます。
 電話通訳を利用し、22の言語で対応可能です。

多言語冊子の無料配布

外国人に関わる皆さまに、3種類の冊子を日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語で無料配布しています。

※郵送できますので、お気軽にご連絡ください。

《無料配布している多言語冊子》

- ★ながさき生活ガイドブック
- ★知っておこう！災害が起こるその前に！
- ★病院に行く時に使う本

開催
12/14
(日)

「ながさき国際協力・交流フェスティバル」 ご案内

今年も、子どもから大人まで楽しめる内容が盛りだくさんです。
 長崎に暮らす外国人や、国際交流団体の方々と交流しませんか？
 ぜひ、遊びに来てください！

詳細は決まり次第、随時当協会のHPでお知らせいたします。



国際交流・多文化共生を 応援する助成金申請の募集

国際交流や多文化共生などに取り組む非営利団体に加え多文化共生に取り組むたい企業にも助成を行っています。

要件がありますので、QRコードからご確認ください。



業務支援ボランティアの募集

毎週金曜日の午後1時から午後4時まで、私たちの業務をサポートしてくださるボランティアを募集しています。
 ボランティアは、外国人とペアで行います。
 新聞のコピーや、チラシを折るなど、簡単な活動です。
 交通費として、毎回1,000円を翌月にまとめてお支払いします。お気軽にお問い合わせください。

CIR（国際交流員）と話そう！

水曜日の午後4時～5時まで、国際交流員と交流しませんか？

韓国、中国、オーストラリア出身のCIRが皆さまをお待ちしています。外国語が話せなくても大丈夫です！

予約不要、無料。

詳細は、当協会のHPでご確認ください。

賛助会員募集中

私たちは、「世界の人々と共生し交流する活力ある地域づくり」を趣旨とし、日本人・外国人がお互いに理解・助け合いながら協働・共生する地域づくりに貢献できるよう活動しています。

安定した運営を確保するためにも、私たちの活動の趣旨に賛同し、支援して下さる個人・企業・管理団体・民間団体を募集しています。

年会費 個人会員：1口 3,000円

法人会員：1口 10,000円

※詳しくは、長崎県国際交流協会にお問い合わせください。

ご支援いただいている賛助会員

安達株式会社 扇精光ホールディングス株式会社
 ヤナセ産業株式会社 長崎県青果移出商業協同組合
 東興産業株式会社 個人会員22名